

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |




- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

1. 建物概要

建物名称	JA越後中央本店新築工事	
建設地	西蒲区 -	
用途地域	工業地域	
建物用途	事務所,	
竣工年	2016年10月 予定	
敷地面積	9,364.31 m ²	
建築面積	1,618.09 m ²	
延床面積	2,997.26 m ²	
階数	地上2階	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施日	2015年10月7日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{58.8}{39.2} = 1.5$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	4.1		バリアフリー	3.0
			維持管理	5.0
			更新性	4.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.2		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.4
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.3		建物の熱負荷抑制	3.0
			自然エネルギー利用	3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	4.0
			リサイクル材の使用	5.0
			再利用可能性向上	4.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全・創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.5		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	4.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

誰もが使いやすい施設としてバリアフリーはもちろんのこと、維持管理がしやすい仕上材の採用や、設備の更新性に配慮した計画とし、長寿命化を目指します。リサイクル材の使用も積極的にを行い資源循環型社会づくりに貢献します。

CASBEE[®]新潟

評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)
CASBEE-新築(簡易版)2010年追加版(BEI対応)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	JA越後中央本店新築工事	階数	地上2階
建設地	新潟県新潟市西蒲区	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	120人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2015年10月7日
敷地面積	9,364 m ²	作成者	全農新潟一級建築士事務所
建築面積	1,618 m ²	確認日	2015年10月7日
延床面積	2,997 m ²	確認者	全農新潟一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 誰もが使いやすい施設としてバリアフリーはもちろんのこと、維持管理がしやすい仕上材の採用や、設備の更新性に配慮した計画とし、長寿命化を目指します。リサイクル材の使用も積極的に行い資源循環型社会づくりに貢献します。	その他 風害、塩害を受けやすい立地条件のため、特に外部の使用建材等注意しました。維持管理や対応年数に配慮した計画としたことにより、未永く愛される施設となるよう心がけました。	
Q1 室内環境 屋根は外断熱、開口部は熱線反射ガラスを採用し、外界からの熱的侵入を抑制します。天井高さは、心理的快適性に配慮しながら、空調や照明照度に無駄のない高さとしています。	Q2 サービス性能 高度情報社会に配慮し、機器増設、レイアウト変更に対応可能なOAフロアを採用しました。リフレッシュスペース、自動販売機設置スペース、喫煙室を設け快適性の向上を図りました。	Q3 室外環境(敷地内) 構内道路等適切な空気を設けることにより、風通しの良い配置計画としています。
LR1 エネルギー 事務所は、窓を適切に配置し、屋光利用と自然換気を積極的に取り入れます。熱線反射ガラスを採用し、かつ、ブラインドを適切に設け、日射や室内外の温度差による熱負荷の低減に努めます。	LR2 資源・マテリアル リサイクル材を積極的に使用し、非再生性資源の使用量削減に努めます。又、環境影響を及ぼす可能性のある有害物質を含まない材料を積極的に採用します。	LR3 敷地外環境 地域インフラへの負荷抑制として、地下貯留施設を設け、雨水排水負荷低減を図ります。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される